

県老連創立60周年に

寄せて



兵庫県老人クラブ連合会
会長 中村 美津子

方も、今ではご自分のことを高齢者と思われている方は少ないでしょう。

2点目は、「就

私達の兵庫県老人クラブ連合会は、昭和35年（1960年）9月に結成され、おかげさまで、今年でちょうど創立60周年を迎えることになりました。

現在、加入する単位クラブは約3,500余り、会員数は約19万人を擁する組織で、全国老人クラブ連合会（全老連）に加入する都道府県や指定都市の老人クラブ連合会63団体中で、クラブ数で2位、会員数で3位の一大組織となっています。

しかし、65歳以上の高齢者は急増するものの、老人クラブへの加入率・会員数は年々減少しています。理由として、1点目には「高齢者の意識の変化」が挙げられるでしょう。

年々平均寿命が伸びることにより、かつては高齢者と見做されていた70歳代の

を持つて主張することができません。

私たち高齢者の一番の願いは「健康長寿」です。

単に長生きをするだけでなく、いかに「健康寿命」（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を伸ばすかが、切実な問題になっています。

そして、「健康長寿」以上に大切なこと、それは、『毎日を幸せに過ごすこと』です。

もちろん、人それぞれに価値観や考え方が異なりますが、私は、『朝、気持ち良く目覚め、美味しくご飯をいただき、家族や気の合う仲間のみなさんとおしゃべりし、笑い合い、一緒に様々な活動を行って、気持ちよくぐっすりと眠ることができる。』これに尽きるのではないかと考えています。

高齢者にとって、『健康』と『仲間との交流』こそが、不可欠の重要なキーワードになります。

この2つを簡単に満たすことができる最も身近な方法は、老人クラブへの加入です。

また、老人クラブの会員が増えない大きな原因のひとつとして、「老人クラブ活動が知られていない。」こと

が指摘されています。

私たちは、このご意見を謙虚に受け止め、ひとりでも多くの皆様に、私たちが日々実感している「幸せ」をお伝えしたいと切に願っており、今後も、身近な方々へ声かけを、着実に続けてまいります。

今、我が国のみならず、全世界が、新型コロナウイルスと共存する生活のあり方を問われています。

私たち高齢者は、これまでの人生の中で、数多くの苦しみ・悲しみ・痛みを経験しながらも、その一つひとつを克服し、今日、毎日を笑って過ごすことが出来ています。

私たち老人クラブの活動にとつて、『人とのふれあい』こそがすべてです。

人と人のふれあいを通して、仲間づくり・健康づくり・生きがいづくりに勤しみ、充実した毎日を過ごすことができたいですが、人との交流がしたくともできない現状は、老人クラブ活動にとつて、本当に大きな試練のときです。

しかし、見方を変えれば、この大変な時にこそ、改めて、老人クラブ活動の意義や本当の良さ・楽しさを見つめ直し実感する好機と捉

えることもできると考えています。

私たちは、行動の適切な自制を通してこの非常に困難な状況を克服し、これまでどおりの、誰もが好きな時に、好きなことを一緒に楽しむことができる日々を回復していきます。

新型コロナウイルスの感染予防に十分留意しながら、一日も早く、コロナの時代にふさわしい『老人クラブ活動のあり方』を皆さんと一緒に作り上げてまいります。

私たち老人クラブは、諸先輩の努力の結果、60年も及ぶ組織を受け継いでいます。

急速に進む少子高齢化の流れにあつて、高齢者が有する豊富な知識・経験を活かして地域の諸団体と協働し、地域を豊かにする社会活動に積極的に取り組んでまいります。

さあ、老人クラブの仲間と一緒に、「楽しくなる・夢中になる・笑顔になる」を活動スローガンに、笑顔をいっぱい浮かべ思いっきり、おしゃべりやスポーツ、様々なイベントを一緒に楽しんで、健康で幸せな毎日の生活を過ごしましょう!!

わたしたちはのじぎくクラブ兵庫の活動をサポートしています
